

- 問1 足利義満が行った外交政策と国内統治に関する記述として、歴史的な事実と一致するものはどれですか。(2022年 岐阜公立入試 類似)
1. 明の皇帝から「日本国王」の称号を授かり、朝貢の形式をとって貿易を行った。
 2. 分国法を制定して守護大名の権限を制限し、幕府の直轄領を全国に拡大した。
 3. 元(モンゴル帝国)の侵攻を退けた後、博多に防塁を築いて防衛を強化した。
 4. 関所を撤廃して楽市・楽座を導入し、自由な商工業の発展を促した。
- 問2 室町時代、借金に苦しむ馬借や農民たちが団結し、幕府や高利貸しに対して借金の帳消しを求めて起こした行動を何といいますか。(2026年 福岡公立入試 類似)
1. 土一揆
 2. 一向一揆
 3. 惣村
 4. 座
- 問3 室町幕府の政治体制において、将軍に次ぐ最高職として「将軍の補佐役」を務め、幕政を統括した役職の名称を選択してください。(2025年 鹿児島公立入試 類似)
1. 管領
 2. 執権
 3. 老中
 4. 摂政
- 問4 室町時代に形成された村の自治組織である「惣」について、その活動や社会への影響に関する説明として最も適切なものはどれか。(2017年 静岡公立入試 類似)
1. 有力な農民を中心に団結し、幕府や領主に対して借金の帳消しを求めた土一揆を起こした。
 2. 幕府から村の運営を強制的に任せられた組織であり、年貢の取り立てを主な目的とした。
 3. 江戸時代に始まった制度であり、隣近所の5軒を1組として連帯責任を負わせた。
 4. 商工業者が特権を得るために結成した同業者団体であり、関所の通行料免除を求めた。
- 問5 室町時代、京都などの都市において、人々から品物を担保に取って金銭を貸し出す「質屋」のような金融業を営んでいた業者の名称として正しいものを、次の中から選んでください。(2024年 岡山公立入試 類似)
1. 土倉
 2. 問丸
 3. 組頭
 4. 株仲間
- 問6 15世紀、首里を首都として成立した琉球王国は、日本や中国、東南アジアの諸国と盛んに交流を行いました。各地の産物を仕入れ、それを他の国々へ転売することで大きな利益を得た貿易形態を何といいますか。(2019年 沖縄公立入試 類似)
1. 中継貿易
 2. 南蛮貿易
 3. 朱印船貿易
 4. 勘合貿易
- 問7 室町時代に栄えた「北山文化」と「東山文化」の比較について、東山文化を代表する銀閣(慈照寺)の背景や特徴を説明した文として最も適切なものを選びなさい。(2023年 島根公立入試 類似)
1. 足利義満が東山に建てた銀閣は、書院造を取り入れた簡素な造りで、武士や禅僧の好みを反映した深みのある美しさの特徴とする。
 2. 足利義満が北山に建てた銀閣は、金箔をふんだんに使い、公家文化と武家文化を融合させた豪華な美しさの特徴とする。
 3. 足利義満が東山に建てた銀閣は、中国の唐の文化を強く受け、広大な池の周りに華やかな寝殿造を配置したことを特徴とする。
 4. 足利尊氏が建立した銀閣は、平安時代の浄土信仰を背景としており、極楽浄土の様子を建築で表現したことを特徴とする。
- 問8 室町時代、馬借や農民らが酒屋や土倉を襲撃し、借金の証文を破り捨てるなどの実力行使を伴う一揆が発生しました。こうした一揆の要求を受け、幕府が借金の帳消しを命じるために出した法令を何といいますか。(2018年 三重公立入試 類似)
1. 徳政令
 2. 分国法
 3. 武家諸法度
 4. 公事方御定書
- 問9 14世紀から16世紀にかけて、琉球王国は地理的な利点を活かして東アジアの交易で重要な役割を果たしました。中国から生糸や薬、茶などを仕入れて日本へ送り、逆に日本からは銀や海産物を仕入れて中国へ送ることで大きな利益を得ていた、このような貿易の形態を何といいますか。(2024年 鳥取公立入試 類似)
1. 中継貿易
 2. 朱印船貿易
 3. 南蛮貿易
 4. 勘合貿易
- 問10 室町幕府が明(中国)との間で始めた貿易において、一方に「日本」、もう一方に「国王」などの文字が記され、二分割された割印を合わせる「勘合」を用いた仕組みが導入された理由として、最も適切なものはどれですか。(2020年 福岡県公立入試 類似)
1. 東アジアの海域で略奪行為を行っていた倭寇と、正式な貿易船を区別するため
 2. キリスト教の布教を目的とした宣教師が、貿易船に紛れ込むのを防ぐため
 3. 鎖国体制を強化するために、特定の港以外に入港する外国船を排除するため
 4. 貿易による利益を独占しようとする守護大名の勢力を抑えるため
- 問11 「万国津梁の鐘」の銘文には、当時の琉球王国がアジアの国々との交易によって栄えていた背景が記されています。中国から仕入れた陶磁器や絹織物を日本や東南アジアへ運び、逆に東南アジアの香料などを日本や中国へ転売した、この貿易の形態を何と呼びますか。(2018年 沖縄公立入試 類似)
1. 中継貿易
 2. 朝貢貿易
 3. 勘合貿易
 4. 南蛮貿易
- 問12 平安時代末期から鎌倉時代にかけての対外関係と、その社会への影響について述べた文として、正しいものはどれですか。(2018年 長崎県公立入試 類似)
1. 平清盛は、瀬戸内海の航路を整備して日宋貿易を盛んにし、大量の宋銭を輸入して国内の貨幣経済に影響を与えた。
 2. 元寇による軍事的な脅威が去った後、室町幕府は尚氏に命じて大規模な造船を行い、元との公的な貿易を再開させた。
 3. 日宋貿易の主な目的は軍事力の強化であり、平清盛は宋から最新の火薬兵器を輸入することで源氏を圧倒した。
 4. 13世紀後半に日本を侵攻した元は、貿易の利益を独占していた琉球王国を壊滅させることで、日本への補給路を断った。
- 問13 室町時代の農業において、生産力が向上した背景とその具体的な仕組みについて説明した文として、最も適切なものはどれですか。(2022年 佐賀公立入試 類似)
1. 灌漑施設の整備や牛馬耕、肥料の普及によって土地利用の効率が上がり、夏に米、冬に麦を育てる方法が全国に広まった。
 2. 大規模な新田開発が進んだ結果、広大な土地を使って一年中同じ種類の作物を育て続ける単作が一般的になった。
 3. 海外との貿易で輸入された化学肥料を大量に投入することで、土地を休ませることなく常に同じ作物を取穫できるようになった。
 4. 幕府による命令で農民が特定の地域に集められ、共同で大規模な輪作を行う制度が確立されたことで生産量が増えた。
- 問14 15世紀、琉球王国(現在の沖縄県)は東アジアと東南アジアを結ぶ海上の要所に位置していました。当時、琉球が中国や日本、東南アジア諸国から輸入した物品を、さらに別の国へ転売することで多大な利益を得ていた貿易の形態を何と呼びますか。(2024年 山梨公立入試 類似)
1. 中継貿易
 2. 三角貿易
 3. 南蛮貿易
 4. 朱印船貿易

答え合わせ・解説

問1	答え 1 明の皇帝から「日本国王」の称号を授かり、朝貢の形式をとって貿易を行った。	義満は経済的な利益を重視し、明の皇帝に臣下としての礼をとることで「日本国王」として認められました。これにより、幕府が貿易の実権を独占し、莫大な利益を背景に強力な権力を行使することが可能になりました。
問2	答え 1 土一揆	室町時代になると、農民たちは「惣」と呼ばれる自治組織を作って団結を強めました。凶作や重税、飢饉などが重なると、彼らは高利貸し（酒屋や土倉）を襲って借金の証文を破棄させたり、幕府に徳政令（借金の帳消しを命じる法令）の発布を求めたりしました。これを土一揆と呼びます。
問3	答え 1 管領	室町幕府では、将軍を支え政務を統括するために管領という役職が設置されました。鎌倉幕府の執権や江戸幕府の老中と同じく、それぞれの時代の幕府における実務上の最高責任者を指しますが、室町時代特有の呼び名であることを区別する必要があります。
問4	答え 1 有力な農民を中心に団結し、幕府や領主に対して借金の帳消しを求める土一揆を起こした。	惣の組織によって団結力を強めた農民たちは、自分たちの要求を通すために実力行使に出ることがありました。特に、徳政（借金の帳消し）を求めて起こした「土一揆」は、惣という自治組織の団結力が背景にあったからこそ、大規模な運動へと発展しました。
問5	答え 1 土倉	室町時代には貨幣経済が浸透し、京都などの都市部で高利の金融業を営む業者が現れました。これらの業者は、品物を保管するための頑丈な倉庫を持っていたことから「土倉」と呼ばれました。同時期に酒造業を営んでいた「酒屋」も、豊富な資金力を背景に同様の金融業を行っていました。
問6	答え 1 中継貿易	琉球王国は地理的な利点を活かし、中国の陶磁器や生糸、日本の刀剣、東南アジアの香料や染料などを集めて転売する役割を担いました。このように他国の産物を別の国へ売る貿易は中継（なかつぎ）貿易と呼ばれ、当時の東アジアにおける物流の拠点として繁栄しました。
問7	答え 1 足利義政が東山に建てた銀閣は、書院造を取り入れた簡素な造りで、武士や禅僧の好みを反映した深みのある美しさの特徴とする。	東山文化は8代将軍足利義政の時代に栄え、禅宗の精神に基づいた「簡素さ」や「静けさ」を尊ぶ文化です。義満が築いた華やかな「北山文化（金閣など）」に対し、義政の「東山文化」は書院造や茶の湯、生け花など、日本人の生活様式に深く根差す文化が育まれた点が大きな特徴です。
問8	答え 1 徳政令	室町時代には、物資の輸送を担う馬借や農民らが団結し、高利貸しを営んでいた酒屋や土倉に対して借金の帳消しを求める「土一揆」が頻発しました。幕府がこれらの一揆の圧力を受けて出した、借金を無効にする法令を徳政令と呼びます。
問9	答え 1 中継貿易	琉球王国は、自国の産物だけでなく、他国から輸入した商品をさらに別の国へ輸出することで利益を上げました。当時の東アジアにおいて、中国（明）と日本などの国々の間に入り、物資の橋渡しをする役割を担っていたことがこの名称の由来です。
問10	答え 1 東アジアの海域で略奪行為を行っていた倭寇と、正式な貿易船を区別するため	当時の東アジア海域では「倭寇」と呼ばれる海賊集団が活動しており、明はこれに悩まされていました。明は室町幕府に対して倭寇の取り締まりを求め、それに応じる形で始まった日明貿易では、海賊船と正式な使節の船を明確に判別するために勘合が使用されました。これにより、幕府が管理する平和的で組織的な「朝貢貿易」の形が整えられました。
問11	答え 1 中継貿易	琉球王国は大型船を運用し、東アジアと東南アジアの結節点という地理的利点を最大限に活かしました。自国の特産品を売るだけでなく、他国の産物を別の国へ運んで売買取引を仲介する「中継貿易」を行うことで、莫大な富を築き、文化の発展に繋がりました。銘文にある「世界の架け橋」という言葉は、まさにこの貿易の仕組みを象徴しています。
問12	答え 1 平清盛は、瀬戸内海の航路を整備して日宋貿易を盛んにし、大量の宋銭を輸入して国内の貨幣経済に影響を与えた。	平清盛は武士として初めて太政大臣となり、大輪田泊の修築や瀬戸内海航路の確保を通じて日宋貿易を強力に推進しました。この貿易によって宋から輸入された大量の「宋銭」は、それまでの物々交換に代わる貨幣として国内で広く流通し、日本の経済構造に大きな変化をもたらしました。元寇は13世紀の出来事であり、琉球王国の成立は15世紀であるため、これらを直接結びつける記述は誤りです。
問13	答え 1 灌漑施設の整備や牛馬耕、肥料の普及によって土地利用の効率が上がり、夏に米、冬に麦を育てる方法が全国に広まった。	室町時代の農業生産力の向上は、単なる面積の拡大ではなく、単位面積あたりの収穫量を増やす技術革新によって支えられました。具体的には、水を引き入れる灌漑技術や牛馬による深耕、草木灰や下肥などの肥料の活用が進んだことで、同じ土地で一年に二度収穫を行う二毛作が可能になり、全国的な普及に至りました。
問14	答え 1 中継貿易	琉球王国は、自国に大規模な産業や産品が少なかったため、地理的利点を活かして物流の拠点となりました。中国の磁器やシルクを日本へ、日本の銀や刀剣を中国へ、東南アジアの香辛料を東アジアへといったように、他国の品物を仲介して売買取引する「中継貿易」によって繁栄しました。